

4-5

演題	外国人介護人材の活用
副題	～技能実習生介護職員の人材育成について～

法人名	社会福祉法人 春日会
施設名	特別養護老人ホーム 等々力

発表者名 (職種)	黒木 啓吾 介護職員	都道府県	神奈川県
共同発表者	松尾 茜音	住所	川崎市中原区宮内 4-19-26
共同発表者	ダオ ゴック ミン	TEL	044-753-2260
共同発表者	工藤 美恵子	FAX	044-753-2261
共同発表者	マルタベ シレガル	メールアドレス	kasugakai-sw@bz03.plala.or.jp
		URL	http://kasugakai1.wixsite.com/kasugakai

今回の発表施設 またはサービスの 概要	安心・安全・敬意を理念とし、個別を重視したサービスを行うとともに季節感のある行事等を積極的に行い、生きがいに満ちた生活を送って頂く気持ちでサービスを提供します。
---------------------------	--

研究の目的、PR ポイント

2040年の日本は現在よりも高齢化率が上がり、介護が身近になると予想されます。利用者様に対して、サービスの質の向上を図るためにもまずは人材不足という面を解決していく必要があります。

現在、当施設では15名の外国人雇用を行っており、外国人職員が抱えている不安や悩みに着目し一人ひとりの職員にあった人材育成・活用を研究してきました。

外国人介護人材を取り入れたことで見えてきたものや今後の課題について明確になりました。

取り組んだ課題

外国人職員（技能実習生等）はどのような不安や悩みを抱え、日々介護の仕事をしているのか。介護の知識・技術を身につけるためにはどのように説明、伝えていく必要があるのか。外国人職員の不安や悩みに対してどのような育成方法で行っていくか。

具体的な取り組み

外国人職員が抱える不安や悩みについて明確化させるため、言語的困難・仕事、業務に関する不安・資格やサポートについて・日本と母国の相違の四項目に分け、まとめました。

アンケートを参考に入社して三か月の外国人職員（ベトナム人）を対象にツールや媒体の使用を許可し、仕事や業務に取り組んでももらいました。その後、関係者職員で評価し、今後の留意点をまとめました。

活動の成果と評価

活動の成果としてアンケートを取ったことで、外国人職員の不安や悩みを明確化できました。

又、明確化されたことで今後、重点的に伝えていく必要のある部分やどういう風に伝えたら外国人職員が聞き取りやすいのか効果的な部分がわかりました。

活動の評価として不安や悩みを少しでも取り除くことにより、職員一人ひとりの働きやすさに繋がり、サービスの質やケアマネジメントの質等の向上を図

ることが出来ると思います。

今後の課題

- 外国人職員の母国語を使える者が近くにいない場合に細かな表現をどのように伝えるか。
- 日本での長期の就労を希望する外国人技能実習生が多く、その為のサポートをどのようにするか。